

令和元年度 中学生の「税についての作文」

千葉県納税貯蓄組合総連合会 会長賞

私たちの生活を支えてくれる税金

柏市立柏中学校 第三学年 集貝 朱里

「はあ、また入院か。」

「そうだね…。」

と四度目の入院に私と母はため息をつきました。私は、中学一年生の三月に病気を発症し、それから一年間入院を繰り返しながら闘病してきました。今はまだ完治する方法は見つかっていません。そのこともあり、半年以上の時間を病院で過ごしました。長期の入院や治療には、当然多額の費用がかかってしまいます。私は両親に対してそのことを申し訳なく思っていました。そんなとき、母が子供医療費助成制度や小児慢性特定疾病医療費助成制度のことを教えてくれました。これらは税金により、医療費を何割か負担してくれるという制度です。この制度のおかげで負担も減り、とても助かったと母も言っています。

母と話してから、医療費助成制度について調べてみました。すると、私たちが負担していない医療費は国の税金の社会保障から使われていることがわかりました。今まで何のために高い税金や消費税を払わなければならないのだろうと思っていた私は、税金は身近な場面で役に立っていることを知りました。税金の社会保障としての使われ方は、医療費の負担だけでなく、他にも高齢者の方の年金や介護にかかる費用、私たち中学生の教育費、さらに公共の施設の建設などもあります。税金は、人々の生活を豊かにするだけでなく、高齢者や子ども、病気や障害をもっている弱い立場の人を支えてくれるとも思います。税金を払うときは、「高いな」、「どうして払わなければいけないのだろう」と感じることも多々あると思います。でも、その税金によってどこかで助けられている人もいるはずです。税金は一度は集められ、払わなければならないものですが、巡り巡って結局は身近な場面や、困っている人々の役に立っているのです。

このようなことを知ることにより、身近な消費税のたった八円でも集まれば大きな力となるので、払うことにより社会を支える小さな一歩になると考えるようになりました。ですから、私も大人になったら社会の一員の義務として、きちんと税金を払い、より良い社会になるよう、貢献していきたいと思えます。